

## 令和3年度第2回草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和3年11月25日（木） 14時00分～15時50分  
場 所： 草津市役所8階大会議室  
出席委員： 三浦委員長、藤田副委員長、塚口委員、浦部委員、河合委員、齋藤委員、  
小林委員、井上委員、黒川委員、小泉委員、柴田委員、南委員、村田委員、  
吉川委員、小野澤委員  
欠席委員： 小沢委員、新崎委員、園田委員、関川委員、荒木委員  
事務局： 市長、健康福祉部山本理事、健康福祉部増田部長、健康福祉部永池副部長、  
健康福祉部江南副部長、都市計画部松尾部長、建設部奥山副部長、  
環境経済部寺田部長、健康福祉政策課岸本課長、  
健康福祉政策課田村課長補佐、健康福祉政策課野々村副係長

傍聴者： 1名

次 第：

1 開会

2 議事

1) 第2期草津市健幸都市基本計画の策定に向けた検討内容等について

3 閉会

## 1. 開会

---

### 【市長】

委員の皆様には大変お忙しい中ご出席をいただきまして、厚くお礼を申し上げます。

本日、第2回の草津市健幸都市づくり推進委員会を、お集りいただいて開催する運びとなったことを、大変ありがたく思っております。

コロナ禍ではございますけれども、少し落ち着いてまいりまして、草津市におきましても10月17日からは新規感染者数0人が続いているところでございます。しかし、冬場にかけて油断はできず、マスクの着用等の感染対策はまだまだ続けなければならないと考えているところでございます。

さて、草津市におきましてはご承知のように、平成28年8月に健幸都市宣言を行い、「まちの健幸」「ひとの健幸」「しごとの健幸」を掲げ、様々な施策を進めてきたところです。そうした中、令和3年度から始まりました第6次草津市総合計画におきましても、健幸都市づくりを全庁挙げてさらに進めていこうという思いで、将来ビジョンに「絆をつむぐふるさと 健幸創造都市 草津」を掲げております。この総合計画は12年間ございまして、現在、草津市の一部の地域では人口減少が始まっておりますが、12年後にはすべての地域が人口減少になる見込みでございますし、超高齢化も一層進んでいくことが予測されております。そういった中で、ひとり暮らしの方の孤立化等が増え、人との繋がりやコミュニティの希薄化が進んでいくことが大いに懸念され、課題がますます多様化、複雑化していく社会だということを認識しておかなければならないと考えております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、健康を維持するための運動の不足や、人との繋がり希薄化もございまして、フレイルや介護認知症の増加も懸念されます。

そういうときだからこそ、ウィズコロナ、アフターコロナ社会を見据えまして、また社会経済情勢の変化を注視しながら、市民の皆様が生きがいを持ち健やかで幸せに暮らせるまちづくりを一層推進し、「ずっと住み続けたいまち草津」を市民の皆様とともに作り上げて参りたいと考えているところでございます。

本日は、第2期草津市健幸都市基本計画の策定に当たりまして、基本方針や全体目標等について、委員の皆様方から多方面にわたるご意見を頂戴して、計画に反映していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

結びにあたりまして、滋賀県も「健康しが」を掲げておりまして、草津市から滋賀県全体、また全国にも発信できるような取組を一層進められればと思っておりますので、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げ、挨拶にかえさせていただきます。

どうぞよろしくお願いを申し上げます。

<市長、退席>

**【事務局】**

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

**【事務局】**

それでは、以後の進行を三浦委員長にお願いします。

**【委員長】**

新型コロナウイルス感染症の影響で、当委員会も書面実施が続いたが、久しぶりに集まって開催することができた。ぜひ今日は活発にご意見いただきたい。

第1期計画策定後に、世の中が新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けており、計画期間前半は計画に沿って進められたが、後半はコロナの影響を受けている。第2期計画はそれも踏まえた検討が必要となってくる。

本日は第2期計画策定に向けての意見交換が中心であるので、第1期を踏まえて多くのご意見いただければと思う。

それでは、事務局から資料の確認をお願いしたい。

**【事務局】**

・資料確認

2 議事

1) 第2期草津市健幸都市基本計画の策定に向けた検討内容等について

**【委員長】**

まずは事務局から説明をお願いしたい。

**【事務局】**

・資料にもとづき、説明

**【委員長】**

第1期計画は、コンパクト・プラス・ネットワーク等、非常に画期的な考え方を組み入れて、全国のモデルになるようなものができればという思いで始まり、第1期計画期間中には様々な取組が計画的に進めてられてきたところである。

本日は、第2期計画策定に向けて、学識経験者や公募市民、各団体の皆様のそれぞれの立場から、計画全体の方向性に関するご意見をいただければと思う。

論点整理に記載のとおり、まずは基本方針について、御意見いただきたい。

**【委員】**

「まち」「ひと」「しごと」という柱を立てて成果を評価しながら進めてきたので、通常であれば大きな方針は急激に変えずに、引き続き改善していくことが望まれるが、コロナ禍により一定方向転換が必要なものもあるのではないか。

特に「しごとの健幸づくり」は、ヘルスツーリズムが軸になっていたが、コロナ禍で今後、観光産業がどう復活するかが見えない中で、目標を立てるのは難しいのではないか。健幸都市宣言賛同事業所については目標値を達成しており、またこの数値は産業を作るといよりも「ひとの健幸づくり」に関係するのではないかと考えている。

草津川跡地公園やキラリエ草津等のすばらしい施設ができているので、いかに産業も含めながら「ひとの健幸づくり」を活性化するかという視点で進められるとよい。

基本的な方針を変えずとも、コロナ禍を踏まえて「しごとの健幸づくり」については「まち」と「ひと」の健幸づくりに吸収できるのではないか。

**【委員】**

健幸都市づくりで一番重視されるのは「ひとの健幸づくり」ではないか。「ひとの健幸づくり」をトップに持ってきて、それを支えるのが「まちの健幸づくり」「しごとの健幸づくり」という流れにしてはどうか。

サステナビリティ（持続可能性）で重要なことは「しごと」である。十分な雇用がないと維持しにくいので、「しごとの健幸づくり」は残してはどうかと思う。

また、「まち」「ひと」「しごと」の関連性が読み取れない。「まちの健幸づくり」でインフラを作って、それが「ひとの健幸づくり」にどのように影響したのかが見えてこない。

**【委員】**

「しごとの健幸づくり」はわかりにくいので、「まち」「ひと」の2つにしてよいと思う。「まち」を最初にすると堅いイメージになる。「ひと」をもってくると市民のことを考えているというアピールにもつながると思う。

**【委員】**

「まち」が最初にくると、市民一人ひとりのためではなく、草津市のために健幸なまちにしたいと感じるので、「ひと」を最初にもってくるのがよい。

**【委員】**

まちを歩いていると「健幸都市くさつ」の垂幕等を目にするが、「まち」を強く感じてしまうので、「ひと」を一番に考えているということがわかると雰囲気が変わると思う。

基本方針も、キャッチーな言葉というか、もっと市民がわかりやすい言葉にしたほうが、市民の健幸都市の捉え方が変わってくると思う。

**【委員】**

老人会やまちづくり協議会、社会福祉協議会等、地域で活動されている方々は高齢になっており、後継ぎが育っていないことに危機感を感じている。人を育てる指導者、役員をどこで育てるのか、だれが地域を引っ張っていくのか。

**【委員】**

私が考える「しごとの健幸づくり」は、働きやすく、従業員の健康をしっかりと考えている企業が草津市に多くなることであり、ヘルスツーリズムや地元野菜というのは違うのではないかと思う。

目標も、働きやすさや従業員の健康づくりを考えている企業の数が見えるようなものにしてはどうか。

**【委員】**

「ひとの健幸づくり」に、まちづくり協議会と連携して地域の特性に応じた健康づくりを進めることができたとあるが、内容を説明願いたい。

**【事務局】**

市が保有する国民健康保険の健診データや協会けんぽが保有する健診データについて、14学区毎に分析を行い、地域保健課の地区担当保健師が各まちづくり協議会に出向いて各学区の傾向をお伝えし、課題や対策について協議を進めている。

**【委員】**

全く知らなかった。広報を読んでも市民は知らないことが多い。もっとみんなに知ってもらうための広報等をしていかないと、全体目標のパーセンテージは上がらない。福祉の総合的相談体制の強化等についてももっと市民に周知すべきである。

**【委員】**

新型コロナウイルス感染症の影響で子どもも親もストレスを感じている。個人情報保護の関係で親同士のつながりは希薄になってきている。専門性が必要となってくる場合もあり、市として様々な機関がつながるネットワークが必要であると考えます。

多様性やLGBTQについても、これからは大きな課題となってくると思われる。

**【委員】**

防災や交通など、一番大切な「安心安全なまちづくり」という観点が抜けているのではないか。施設の利用者数については、利用者を増やすよりも利用団体を増やすことが重要だと考える。

**【委員】**

安心安全なまちづくりは重要なことだと思う。「草津市で生活すると安心できる、子育て中も老後も安心して暮らせる」ということを定めた計画にしたい。

健幸都市宣言賛同事業所に対しての取組を説明願いたい。

「ひとの健幸づくり」の実施できなかった事業に、保育所・こども園などでの健康づくりがあがっているが、内容を説明願いたい。

**【事務局】**

健幸都市宣言賛同事業所に対しては、不定期ではあるが、市が開催しているイベントをメールで紹介したり、イベントへの出展等で連携したりしている。今後、コロナの状況が落ち着けば、賛同事業所とまた新しい形で何か連携していければと考えている。

保育所等での健康づくりについては、昨年度に幼児の運動遊びプログラムモデル事業を実施予定であったが、コロナの影響で4月から6月は家庭保育の協力を要請したため、実施できなかったものである。昨年度までの実績をまとめたため実施できなかった事業としてあがっているが、当モデル事業については今年度実施している。

**【委員】**

主な成果欄には「実施できなかった事業・廃止する事業」と記載があるが、廃止する事業がこの中に含まれているのか。

**【事務局】**

参考資料1が、第1期計画における事業の進捗状況について、各担当課に確認した結果をまとめたものであり、例えば、滋賀健康創生特区等との連携については、県の取組自体が廃止となったため廃止する事業としてあがっている。

**【委員】**

「まちの健幸づくり」は市が主体的に推進しやすいが、「ひと」は個人が主体、「しごと」は企業が主体の部分が多く、市はコーディネート役であり主体的に推進しにくいと思われる。目標値は具体的な取組内容を絞って定めたほうが、市民にはわかりやすい。

**【委員長】**

基本方針について様々なご意見をいただいたので、今日の意見を踏まえて事務局で検討し、次の基本方針について発案いただきたい。

次に全体目標と基本方針毎の目標値についてご意見いただきたい。

**【委員】**

市民意識調査は、3,000人に送付して回収率ほどの程度か。3,000人と定めた根拠は何か。

**【事務局】**

市民意識調査は当項目だけでなく、様々な分野の質問をまとめたものであり、企画部門が担当のため詳細は把握できていないが、3,000人という人数はおそらく統計学等に基づいて定めたと思われる。

有効回答数は868人で回収率は28.9%である。

**【委員】**

「健幸なまちだと思うか」と質問されてもわかりにくい。イメージしやすい例等を記載しないと、この質問自体がわからないのではないか。

**【委員】**

本日の会議でも「ひとが大事」という意見が多い。最終的に人が健幸になることが重要なポイントであり、そこに繋がるのが「まち」「しごと」の健幸づくりだといえる。第1期計画の全体目標は主観的であり、客観的に評価するのが難しいため、別の指標をたてたほうがよいのではないか。すべての人が元気に過ごせることを数値化したものを全体目標としておくのが適切ではないかという観点から、「ひとの健幸づくり」の目標値になっている健康寿命が重要な指標と考える。

まちが健幸であれば、健康寿命の数値も改善していくと思われる。それぞれの施策がどのような効果があったかという数値を踏まえた上で、それが最終的に健康寿命にどう影響したかも数値化しやすいと感じている。

健幸なまちだと市民が感じることは非常に重要だと思うが、目標を毎年チェックして改善していくという観点からは、客観視できる指標の方がふさわしいと思われる。

**【委員長】**

健康寿命の分析結果はあるのか。

**【事務局】**

子どもから高齢者までの健康寿命を毎年出しているのですが、若干浮き沈みはある。現在は明確な分析ができていないが、今後必要と考えている。

**【委員】**

全体目標が低迷している一番の原因は、「健幸なまちですか」と聞かれても答えようがなかったことだと思う。注釈と質問を入れ替えてみるのも1つの方法。

また、「住み続けたいまちだと思うか」等、関連が深いと思われる他の質問との相関をとり、この値が特異なものなのかを確認してみるとよい。

健康寿命については高止まりになっており、成果を直接表すのは難しいのではないか。

客観性がある指標としては、外出率も考えられる。その他、様々な指標があるので、もう少し検討してはどうか。

**【委員】**

以前の会議資料にあった、学区毎の国民健康保険加入者の健康診断受診率を指標にしてはどうか。ただし、国保以外の方の受診率をどう組み込んでいけるかが課題である。

今の全体目標の率をあげるためには、子どもに草津市が健幸都市の取組を進めていることを伝え、子どもから親や家族に伝えてもらうことが効果的ではないか。

**【委員長】**

先ほどの御意見の中にも、第2期計画に含めるべき視点について御意見いただいたが、他にどうか。

**【委員】**

「食」を重要視していただきたい。また、健康寿命と平均寿命の差は介護が必要な期間となるが、その視点が抜け落ちている。女性は平均寿命も長いので、介護期間が長いことも知っていただきたい。

**【委員長】**

受動喫煙の対策が強化されたところであり、たばこ対策として、子どもたちに煙を吸わせないような環境づくりが重要だと考えている。

ひとの健幸づくりには、障害者との共生の視点も必要である。

本日の会議では、「ひと」が一番にあったほうが良いという意見が多かった。また、堅いイメージではみんなで健幸都市づくりに取り組もうという気が起きないので、イメージづくりも大切である。

議事は以上となるが、議事録については、事務局でとりまとめをした上で、確認を私に一任いただいてもよいか。(⇒異議なし)



**【事務局】**

次回の会議は3月頃を予定しており、本日のご意見を踏まえ、骨子案を提示させていただく。開催通知を送付し、出欠の確認をさせていただく。

事務局からは以上である。

**4. 閉会**

---